

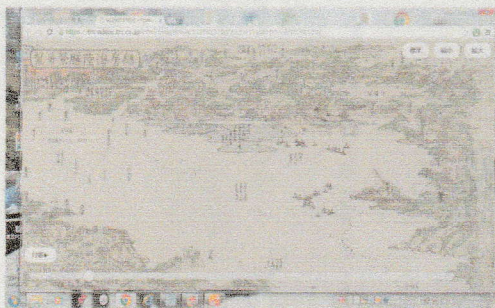
すみだ北斎美術館を訪ねて

1、すみだ北斎美術館の常設展示室には、添付資料1の『北斎仮宅写生図』の絵柄と同じような構図で、晩年の北斎とお栄が暮らした部屋が再現されてお



ります。この再現された部屋は、添付資料1の絵柄を既にみた方は、あ！あの絵だと気がつきますが、初めて見た方は、炬燵の蒲団を肩までかぶり絵を描いている姿をみて、びっくりすると同時にまさに画狂老人の姿に写ります。

2、北斎の娘『阿栄（おえい）』が、注目を集めており、箸を持つより絵筆を持つのが好きで、父の北斎の元へ嫁ぎ先から戻り、北斎の助手として絵を描き、自らを『葛飾 応為（おうい）』として活躍。世上、『光の浮世絵』江戸のレンブラントと称されております。特に『吉原格子先之図』は、有名です。



3、葛飾北斎は、袖ヶ浦市郷土博物館の玄関ホールに入って左壁面に描かれている『総房海陸勝景奇覧』で、下総、上総が描かれておりとても親しみが湧きます。

4、すみだ北斎美術館は、東京・両国より錦糸町方向へ徒歩10分程度です。

見学に出かけた日は、外国人の見物客が目立ち、さすが『世界の北斎』だと感心しました。

